日英比較言語学の実践Ⅲ
――日英のことわざを比較して――

日　野　資　成

0　はじめに

ステレオタイプという語がある。これは，もとは新聞印刷で何度も使う鉛版のことで，そこから派生して現在は，「決まりきった型・見方」という意味で使われている。『異文化コミュニケーションワークブック』(16ページ)には，外国人が日本人に対して持つステレオタイプとして「まじめで，親切で，遠慮深い」などが挙げられ，一方日本人はアメリカ人に対して「フレンドリー，フランク，陽気」といったステレオタイプを持つ，とある。外国人をステレオタイプ的に見るのは，異文化コミュニケーションの妨げになることもあり得る。しかし，すべての人に当てはまるのでなく，あくまで一般的な傾向としては，筆者のアメリカ留学の経験から，これらのステレオタイプが当たっているように思える。経験的には正しいと思われるこれらのことの根拠として，これまでの比較言語学の実践Ⅰ・Ⅱの論文では，日英の慣用句を根拠として，それぞれに現れる文化の類似点・相違点を探ってきた。今回は，日英のことわざを根拠として，日英の文化の類似点・相違点を探ってみたい。

「ことわざ」とは，『日本国語大辞典』によれば，「昔から世間に広く言いならわされてきたことば。教訓や風刺などを含んだ短句」とある。具体的には，「こういう時には，こうしなさい/こうしないようにしなさい」といった，

一般的に通用する人生訓を述べたものがことわざである。その中には，命令形で「長いものには巻かれろ」「七たび探して人を疑え」というものもある。これらは直接こうすべきだと述べているが，一方，命令形でなく，「石橋をたたいて渡る」「口は災いのもと」などのことわざも多くある。しかしこれらもそれぞれ，「ものごとを行うときには，用心に用心を重ねて行いなさい」「うっかり言ったことが他人の恨みを買うことがあるから注意しなさい」という人生訓を表したものである。

ことわざは，さきほどの『日本国語大辞典』の定義にあるように，ある言語共同体の人々にあまねく使用されてきたことばである。したがって，ことわざには，言語共同体特有の文化が反映されることは想像に難くない。たとえば，日本には「出る杭は打たれる」ということわざがあるが，これは「目立つことはよくない」という日本人の価値観を反映している。一方英語の Strike while the iron is hot.（鉄は熱いうちに打て）は，「思い立ったら即行動せよ」という英米人の価値観を反映している。違いだけでなく，万国共通のものもある。たとえば，「遠い親戚より近くの他人」は英語で A friend in need is a friend indeed. であり，日本でも欧米でも，自分の身近にいる人の方がすぐに頼めて力になることに変わりはない。本稿では，このように日英のことわざを比較対照することによって，日本人と英米人がその価値観，人生観，文化において，どう異なるのか，また似ているのかを探っていきたい。今回取り上げることわざのうち，英語のことわざは，『日英ことわざの比較文化』と『ネイティブ英語の「ことわざクイズ」学習帳』から引用し，日本語のことわざは『故事ことわざ辞典』，『ことわざ名言集』，『日本のことわざ』から引用した。日本のことわざのうち，出典のわかっているものについては，ことわざの説明の直後に［　］の中に入れて示した。これらの出典はすべて，『ことわざ名言集』によった。

では，まず第1節で日本的なことわざを紹介し，第2節で英語的なことわざを紹介する。さらに第3節では似て非なる日英のことわざを対照させ，最後に第4節では日英に共通して使われる，人生の知恵としてのことわざを紹

介する。

1　日本的なことわざ

さまざまなことわざの中で，もともと日本人が作ったものを見てみると，消極的なものが目につく。一方，へりくだりの精神を反映したもの，慎重さがよく出ているもの，人情を大切にするもの，一つのことに秀でることを大切にするものもある。さらに，日本の文化として，仏教を反映したものもある。順番に取り挙げてみよう。

1.1　消極性を表すもの

消極的なことわざはさらに，①目立つのはよくない，②おしゃべりはよくない，③他とのかかわりをもたない，④待ちの姿勢が大切だ，⑤強いものに服従する，⑥弱いものを馬鹿にする，⑦マイナス志向の７つに下位分類した。それぞれことわざの例を挙げて解説する。

①目立つのはよくない

(1) 出る杭は打たれる

頭角を現すと，人から恨まれること［北条五代記］

(2) 雉も鳴かずば撃たれまい

人の目につくことをしたばかりに，ひどい目に会うこと［神道集７］

(3) 能ある鷹は爪を隠す

能力はあっても，他人にひけらかしたりしないこと

［北条氏直時分諺留］

日本社会では，力をつけたとしても，人目につくような言動は恨みを買うもとになるので，地道に努力して結果を出すのがよいようだ。

②おしゃべりはよくない

(4) 口はわざわいのもと

ついうっかり言ったことが他人の恨みを買うこと［舞の本・しづか］

(5) 口では大坂の城も立つ

口先だけならどんな大きなことでも言えること

(6) 口から先に生まれる

しゃべるために生まれる。口数の多い人をあざけることば

自分では何とも思わなくても，ついうっかり言ってしまったことが他人を傷つけることもある。日頃から注意するに越したことはない。一方，ことばで言うよりも心で伝え合うのをよしとすることわざが「以心伝心」，ことばで言わずに実行するのをよしとすることわざが「不言実行」で，これらも日本人の生き方をよく表している。

③待ちの姿勢が大切だ

(7) 果報は寝て待て

よい知らせは寝て待っていれば来るものだ［箕潜］

(8) 誘う水あらば（去なんとぞ思う）

相手が誘ってくれるならば（行こうと思う）

［古今集・雑下938小野小町の歌の下の句］

(9) 残りものには福がある

（ずっと待っていると）最後によいものが残るものだ

待っていればよいことがある，というのもやや消極的である。宝くじも買わなければ当たらない。

④他とのかかわりを持たない

(10) さわらぬ神にたたりなし

危険なことにも関係しなければ災いはこないこと［新版歌祭文］

(11) 寝た子を起こす

無用な手出しをして面倒な騒ぎを起こすこと

(12) 見ざる，聞かざる，言わざる

人の悪事を見ない，聞かない，批判しないこと［絵本太功記］

どのことわざも，他とかかわりを持たないようにしようという点で消極的だが，よけいなことをしたためにわざわいを招かないようにせよという教訓

である。

⑤強いものに服従する

(13) 寄らば大樹の陰

頼りにするなら強いものがよいということ［世話尽］

(14) 泣く子と地頭には勝てぬ

権力のある者には従わねばならないこと［教草女房気質］

(15) 長いものには巻かれろ

力のある物には抵抗せず言うなりになれということ

［平賀源内・神霊矢口渡］

自分を弱いものとして，強いものに従う。これも消極的だが，人生を上手に生きるための教訓である。

⑥弱いものを馬鹿にする

(16) あわてる乞食は貰いが少ない

(17) 盲蛇に怖じず［傾城色三味線］

(18) 馬鹿の一つ覚え

日本語のことわざには人をあざけるものが多い。自分より劣る人を見つけて馬鹿にし，優越感に浸りたいのかもしれない。この種のことわざには，マイナスイメージの語がよく出てくる。この種のことわざには，このほかに「馬鹿は死ななきゃ直らない」「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」などがある。

⑦マイナス志向，悲観的考え

(19) 一寸先は闇

ほんのちょっとした将来も何が起るかわからず不安なこと

(20) 一難去ってまた一難

災難があったかとおもうと，また災難が続いて起ること

(21) 会うは別れの始めなり　会えば必ず別れがある

将来に不安を感じたり，災難があるとまた災難があるのではないかと思ったり，会ったときにもう別れのことを考えたり，すべて悲観的な人生の見方である。

1.2　へりくだりの精神を反映する

(22) 枯れ木も山の賑わい

枯れ木のようにつまらないものでも，何も生えていない裸山に少しは趣を添えるだろうということ

(23) 一寸の虫にも五分の魂

小さいものは小さいなりに，それ相応の意地や才能があること

［毛吹草］

(24) 馬子にも衣装

つまらぬ者でも，体裁を整えれば立派に見えること

3つとも，「も」という譲歩の助詞がついている点に注意を要する。つまり，「も」の前でいったん譲歩し（謙遜し），そのあとで主張する（持ち上げる）というやり方で，直接主張せずに，いったんへりくだるという日本的な表現法で，「つまらないものですが，どうぞ」と言って，ご馳走を出すのと同じである。日本社会では，いったんへりくだってから主張する方が，直接主張するよりも他者との摩擦を避けることができる。

1.3　慎重さが大事

(25) 石橋をたたいて渡る

用心に用心を重ねること

(26) 油断大敵

油断は禁物，何事にも注意深く対処しなければならないこと

(27) 七度探して人を疑え

紛失物は，何度も探して自分に過失がないことを確かめてから人を疑うべきだということ　［毛吹草］

(25)と類似のものとして「年には念を入れよ」［壇浦兜軍記］，「転ばぬ先の杖」［伊賀越道中双六］がある。すべて，注意して慎重に対処すべきだという人生訓である。

1.4　人情を重んずる

(28) 渡る世間に鬼はない

世の中には無慈悲な人ばかりでなく，慈悲深い人もいるということ

［東海道名所記］

(29) 旅は道連れ世は情け

旅には連れがある方が心強いように，この世の中を渡っていくには互いに支え合う人情が大切だということ

(30) 情けは人のためならず

人のためによいことをすれば，必ず自分にもよい報いが来るということ［曽我物語］

現代のように犯罪が増えている世の中では，「人を見たら泥棒と思え」ということわざの方が当てはまりそうだが，殺伐とした世の中だからこそ，人と人が助け合い，支え合うことが必要という人生の教えである。

1.5　一つのことに秀でる

(31) 餅は餅屋

餅を作るのは餅屋が一番上手だ。何事にも専門家が必要だということ

［出家気質］

(32) 多芸は無芸

多くの芸に通じている人は，傑出した芸が身につかないということ

(33) 器用貧乏

器用だと人に便利に使われて，一つのことに大成できないこと

(31)は一つのことに秀でた専門家の必要性を説き，(32)，(33)はあれもこれも手出しするとひとつのことで大成できないことを表している。これだけは誰にも負けないというものを持ちたいものである。

1.6　仏教を反映する

(34) 捨てる神あれば拾う神あり

たとえ見捨てられても必ず救ってくれる人もいるということ

(35) 袖すり合うも他生の縁

見知らぬ人と袖をすりあわせるのも何かの因縁によるものだということ

(36) 仏の顔も三度

どんなに忍耐強い人でも限度があるということ［狂言・貫聟］

(34)の捨てる神と拾う神は別々の神で，日本が多神教であることを示している。(35)の「他生」は仏教用語で過去・未来のこと。(36)にも「仏」が出てくる。

2　英語的なことわざ

もともと欧米でできた英語のことわざには，日本語とは反対に積極的なものがたくさんある。まずは積極性を表すものを挙げ，次に平等性を表すもの，多様性を表すものを挙げる。最後に文化を表すものとしてキリスト教を反映したことわざを取り上げる。

2.1　積極性を表すもの

積極的なことわざはさらに，①言わなければわからない，②思い立ったらすぐにやる，③他とかかわって行動する，④強い意志を持つこと，⑤プラス志向を表すもの，⑥知力を肯定する，の6つに下位分類した。順番に解説しよう。

①言わなければわからない

(37) The squeaking wheel gets the oil.

きしむ車輪は油をさされる(声高に不満を言う人ほど聞き入れられる)

(38) Silence gives consent.

沈黙は承諾のしるし（黙っている人は同意したとみなされる）

(39) Call a spade a spade.

鍬は鍬と呼べ（はっきりありのままに言え）

アメリカ社会では「沈黙は金」「以心伝心」は通じない。思っていることは口に出して言う必要がある。(37)は，日本のことわざの「1.1　消極性を表すもの」の「①目立つのはよくない」の反対で，車輪がキーキーきしむように目だって言わなければ不満が通じないことを言っている。(38)，(39)は，消極的な日本のことわざの「②おしゃべりはよくない」の反対で，特に(38)からわかるように，アメリカでは黙っていると承諾したと誤解されてしまうので注意を要する。

②思い立ったらすぐにやる

(40) Make hay while the sun shines.

太陽が照っている間に草を干せ（好機逸すべからず）

(41) The sooner the better.

早ければ早いほどよい（善は急げ）

(42) Strike while the iron is hot.

鉄は熱いうちに打て

これらはみな，英語から日本語に入ってきたことわざで，特に make hay（干せ）や strike（打て）などの行動を表す動詞が使われているのがアメリカ的である。これらは，消極的な日本のことわざの「③待ちの姿勢」と対照的である。

③他とかかわって行動する

(43) Nothing ventured, nothing gained.

危険を冒さなければ何も得られない（虎穴に入らずんば虎子を得ず）

(44) Better to ask the way than go astray.

道に迷うよりも聞いた方がよい（聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥）

(45) Ask, and it shall be given you.

求めよ，さらば与えられん（『新約聖書』マタイ7.7）

どれも，他と積極的にかかわることによって道が開けることを言っている。

これらは，消極的な日本のことわざの「④他とのかかわりを持たない」と対照的である。

④強い意志を持つこと

(46) Where there is a will, there is a way.
意志のあるところに道はできる

(47) Don't forget your first resolution.
初心忘るべからず

(48) Practice makes perfect.
習うより慣れろ

(46)の will は意志で，意志を貫き通して行動すれば道が開けることを説く。(47)の resolution は決心で，いったん決心したことを中途で変えずに最後までおしとおしなさい，ということ。(48)の practice は練習で，日々強い意志を持って繰り返し練習すれば完璧にできるようになるということである。これらはみな，強く生きるという点で，消極的な日本のことわざの「⑤（弱者として）強いものに服従する」と対照的である。

⑤プラス志向，楽観的考え

(49) It is easier to do something than to worry about it.
案ずるより生むが易し

(50) Nothing succeeds like success.
成功ほど続いて起るものはない

(51) Lightening never strikes the same place twice.
雷は二度同じ場所に落ちない（同じ人が同じ不幸に二度見舞われることはない）

これらも，消極的な日本のことわざの「⑦マイナス志向」と対照的である。(49)は「一寸先は闇」と反対，(50)，(51)は災難が打ち続いて起るという「一難去ってまた一難」とまさに対照的である。

⑥知力を肯定する

(52) Knowledge is power.

知識は力なり

(53) The pen is mightier than the sword.

ペンは剣よりも強し（文は武よりも強い）

(54) It is never old to learn.

年を取り過ぎて学べないということはない（六十の手習）

(54)の learn（学ぶ）は知識を学ぶことで，知識は人間が行動するための知力になる。「1.4　人情を重んずる」で挙げた日本のことわざと，「知」に対する「情」という点で対照的である。

2.2　平等性を表すもの

(55) Give the devil his due.

悪魔にも当然与えるべきものは与えよ

（どんな人でも ── たとえ悪人でも ── 公平に評価せよ）

(56) Accidents will happen (in the best-regulated families).

（きちんとした家庭でも）事故は起きるもの

(57) Every dog has his day.

どの犬にも盛りがある（誰にでも運の向くときがある）

(55)は人を分け隔てしないこと，(56)はだれにでも平等に災害が起ること，(57)は誰にでもチャンスがあることを説いている。どんなものに対しても対等に見るという点で，消極的な日本のことわざの「⑤強いものに服従する」と「⑥弱いものを馬鹿にする」の差別性に対応している。

2.3　多様性を表すもの

(58) Variety is the spice of life.

変化は生活の香辛料（変化は生活に楽しみや潤いを与えるもの）

(59) There's more than one way to skin a cat.

猫の皮をはぐ方法はひとつではない

（目標を達するにはいろいろな方法がある）

(60) Look on both sides of the shield.

盾の両面を見よ（全く異なる解釈もある）

(58)は，一つのことだけでなくさまざまなことを体験する人生を肯定し，(59)，(60)は，ものごとにはさまざまな見方があることを言っている。「1.5　一つのことに秀でる」で挙げた日本のことわざと，多様性(多面性)・専門性（一面性）という点で対照的である。

2.4　キリスト教を反映したもの

(61) Do your best and leave the rest to God.

ベストを尽くして，あとは神に任せよ（人事を尽くして天命を待つ）

(62) God does not bless a person twice.

神は人を二度は祝福しない（天は二物を与えず）

(63) To err is human, to forgive divine.

過ちは人の常，許すは神の業

(61)，(62)の God や(63)の divine（神の業）には，絶対的で唯一の神のみを信ずるというキリスト教の信仰が現れている。「1.6　仏教を反映する」で挙げた日本語のことわざと，宗教の点で対応している。

3　似て非なる日英のことわざ

第1節と第2節で，日英で対応することわざによる翻訳をいくつか示したが，それらはみな，双方であまり意味に差がないものであった。しかし一方で，一応ことわざによる翻訳がついてはいるものの，双方にずれのあるものもある。それが日英の文化を反映する点で興味深いので，ここでいくつか紹介したい。

3.1　多様性と専門性

(64) A rolling stone gathers no moss.　転石苔生せず

英語では moss（苔）は価値のないものとしてとらえられ，常に転がっていれば苔がつくことはない，つまり，人生で常に変化を求めていけば錆付くことはない，という意味で使われている。一方日本語では，「苔」は価値のあるものとしてとらえられ，常に転がっていると，つまり人生であちこち転々としていると一つのことに大成しない，という意味として使われている。これは，「2.3　多様性を表すもの」（多様性・変化に価値を認める）と「1.5　一つのことに秀でる」（一つのことを専門的に突き詰めていくことに価値を認める）に対応した解釈である。

3.2　平等性と差別性

(65) First come, first served.　早い者勝ち

英語の「最初に来た人がサービスを受ける」というのは，早く来ればだれにでもサービスを受けるチャンスがあるという点で平等性を表している。一方日本語の「早い者勝ち」は早く来た人だけが得をし，後から来た人は何ももらえないという差別性を表している。これは，「2.2　平等性を表すもの」（平等性に価値を置く）と「1.1　⑤強いものに服従する・⑥弱いものを馬鹿にする」（差別性に価値を置く）にそれぞれ対応した解釈である。日頃はせっかちなアメリカ人が，何かを手に入れるために列を作って待つときは，みんな気長に待つ。これは，平等性にもとづいている。

3.3　プラス志向とマイナス志向

(66) It is no use crying over spilt milk.

こぼれたミルクのことを嘆いても仕方がない→後悔先に立たず

日本語の「後悔先に立たず」は，何か失敗したときに悔やんで使うことわざである。一方英語の方は，失敗はしたけれども次は上手くやろうとか，後で悔やまないように今全力でやろうといった前向きな意味で使われることが

多い。

(67) It is a wise child that knows his own father.

父親のことを知る子は賢い→親の心，子知らず

日本語の「親の心，子知らず」は親が子のことを心配しても子はそれがわからない，という否定的意味で，親不孝な子に対して使われる。一方英語の方は，自分の父親のことを知っている子は賢い，というように肯定的にとらえ，子に対して「賢くあれ」という人生訓である。親不孝な子は英語圏にも日本の社会にも同様にいるが，英語のことわざはあくまでも肯定的表現になり，日本語のことわざは「子知らず」と否定的な表現になっている。

4　日英で共通したことわざ

人生訓，人生の知恵を表すことわざには万国共通のものが多い。最後に，英語のことわざとそれに対応する日本語のことわざに意味のずれがない，ほぼ同じ意味で人生訓を表しているものを取り上げる。まず，日英のことわざともに見られる表現として，逆説的表現と対句表現を取り上げ，次に英語のことわざに特に見られる特徴として，動詞によって具体的行動を表すもの・無生物主語による表現を挙げ，最後に日本語のことわざに主に見られる特徴として，数を使ったことわざを取り上げる。

①逆説的表現

(68) Sometimes the best gain is to lose.

失うことが最良の得になることがある→損して得取れ/負けるが勝ち

(69) Make haste slowly

ゆっくり急げ→急がばまわれ

(70) There's no such thing as a free lunch.

只で食べられる昼食はない→只より高いものはない

ことわざには，一見間違っているようで実は真理をついているという逆説的表現が多い。この3つもそうである。(68)で，英語では「得する方が損す

るよりよい」という一般的な考えの逆をしなさいといい，日本語でも「勝つ方が負けるよりもよい」という考えの逆をするようにいっている。(69)でも，英語では「急ごうと思ったら早く行動せよ」とは逆で「ゆっくりしなさい」といい，日本語でも「急ごうと思ったら最短距離を行け」とは逆に「回り道をせよ」といっている。(70)の英語「只の昼食」とは，かつてバーなどで客寄せのために行われた無料の軽食サービスのことで，そのあとその店に行ってほかのものを食べれば高くつくということ。日本語のことわざも，人から只で物を貰うと，返礼したり無理なことを頼まれたりして，かえって高くつくということ。日英ともに「只より安いものはない」という事実と逆のことをいっている。

②対句表現

(71) A friend in need is a friend indeed.

まさかのときの友が真の友→遠い親戚より近くの他人

(72) Haste makes waste.

あせると無駄になる→急いてはことをし損じる・短気は損気

(73) Providing is preventing.

備えることは（災害を）避けることだ→備えあれば患えなし

ことわざには対句表現も多い。ここでも，日英ともに2つの傍線部が対になっている。英語では in need と indeed，haste と waste で脚韻が踏まれ，providing と preventing では，頭韻と脚韻が踏まれている。日本語では，(72)の「短気」と「損気」で脚韻が踏まれている。

③動詞によって具体的行動を表現（英語のことわざの特徴）

(74) Look before you leap.

跳ぶまえに見よ→念には念を入れよ

(75) The proof of pudding is in the eating.

プリンの味は食べてみないとわからない→論より証拠

(76) Seeing is believing.

見ることは信じることだ→百聞は一聞にしかず

英語のことわざでは，look，eat，seeという動詞を使うことによって，見たり食べたりして自分で確かめよ，というメッセージをわかりやすく伝えている。

④無生物の主語による表現（英語のことわざの特徴）

(77) Love is blind.

恋は盲目→痘痕もえくぼ

(78) Wall have ears.

壁は耳を持つ→壁に耳あり

(79) Pride goes before destruction.

破滅の前に誇りが来る→奢れる者は久しからず

英語では傍線部の主語はみな無生物である。これは英語の文章に見られる一般的特徴でもある。

⑤数を使った表現（日本語のことわざの特徴）

(80) Every man has his foibles.

誰でも弱点を持っている→なくて七癖

(81) He has long arms and a long tongue as well.

舌も長いし手も長い→口八丁手八丁

(82) The child is father of the man.

子供は大人の父である→三つ子の魂百まで

日本語のことわざには，数で表現されるものが多い。ここでも，傍線部はすべて数で表現されている。なお，(80)の日本語「なくて」と「七癖」は頭韻を踏んでいる。(81)の日本語も「口八丁」と「手八丁」で脚韻を踏んでいる。(81)の英語のlong armsとlong tongueは長い手や舌で，みんなを丸め込むことができるということであろう。(82)の英語はワーズワースの詩に出てくる(『日英ことわざの比較文化』43-44ページ)。日英ともに，人間の性格や性向は幼い頃に形成され，死ぬまで変わらない，ということ。日本語の「三つ子」は三歳児のこと。

日英ともに数で表現されていることわざもある。

(83) Three women and a goose make a market.

女３人とガチョウ１羽で市場ができる→女三人寄れば姦しい

(84) A wonder lasts but nine days.

不思議なことも９日しか続かない→人のうわさも七十五日

(85) Two heads are better than one.

２つの頭脳は１つよりもよい→三人寄れば文殊の知恵

(83)は日英ともに３で表され，数が全く一致している。(84)では英語の９が日本語の75に対応している。英語にはこのほかに，up to the nines（完全に），nine times out of ten（十中八九），A cat has nine lives.（猫に九生あり）などの表現もあり，欧米では９が好ましい数字と考えられている(『日英ことわざの比較文化』216ページ)。一方日本語では，七・五・三が好んでよく使われる。(85)でも英語の２が日本語の３に対応している。

5　おわりに

以上，日本語のことわざと英語のことわざを比較対照してきた。ここでもう一度，相違点を整理してみよう（本文で使用した章・節などの番号を参考までに示す)。

(86) 日本語と英語のことわざの相違点

日本語のことわざ	英語のことわざ
1　消極性（1.1）	1　積極性（2.1）
②おしゃべりはよくない	①言わなければわからない
③待ちの姿勢	②思い立ったらすぐにやる
④他とのかかわりを持たない	③他とかかわって行動する
⑤（弱者として）強いものに服従する	④強い意志を持つ（強く生きる）
⑦マイナス志向	⑤プラス志向
2　情を重んずる（1.4）	2　知を重んずる（2.1）

3	差別性（1.1の⑤⑥）	3	平等性（2.2）
4	専門性（一面性）(1.5)	4	多様性（多面性）(2.3)
5	仏教（多神教）(1.6)	5	キリスト教（一神教）(2.4)

このような価値観・文化の相違点がある一方，共通点もあった。それは，わたしたちが生きていく上での生活の知恵となるもので，その中には，表現法としても，逆説的表現・対句表現が共通していることを指摘した。

今回は，それぞれの項目について用例を３つずつ挙げた。１つ２つでは用例不足だが，３つあれば「３人寄れば文殊の知恵」で，説得力が出てくると思ったからである。しかし，用例は多ければ多いほどよいので，今後はさらに他の用例にもあたることによって，相違点の項目を再検討してみたい。また，相違点に対する反証を表すことわざもないわけではない。たとえば，数を使った表現で挙げた，日本語のことわざ「口八丁手八丁」は「ア　おしゃべりはよくない」の反証ともなり得る。今回は，あくまでも一般的傾向としての相違点にとどめておきたい。

参考文献

異文化コミュニケーションワークブック　八代京子・荒木晶子・樋口容視子・山本志都・コミサロフ喜美　2001年　三修社
故事ことわざ辞典　北原保雄監修　鳥飼浩二・加藤博康編著　1994年　緒方出版
ことわざ名言集　保坂弘司　1971年　学燈社
日英ことわざの比較文化　奥津文夫　2000年　大修館書店
日本国語大辞典　金田一京助他編　1972-76年　小学館
日本のことわざ　金子武雄　1969年　社会思想社
続日本のことわざ　金子武雄　1969年　社会思想社
ネイティブ英語の「ことわざクイズ」学習帳　牧野高吉　2004年　青春出版社